

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 岡山県
都道府県 岡山県
対象地域 備前市、赤磐市、和気町
対象品目 いちご



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

＊岡山県東備地域では、11戸、約2haの生産者が促成いちごの栽培に取り組んでいるが、防除が最も困難な害虫としてハダニ類が問題となっている。ハダニ類への対策として、現状では多種類の化学農薬をローテーション散布しているが、化学農薬への抵抗性が発達しやすいこともあり、防除効果が必ずしも十分とはいえない現状があった。今回、薬剤抵抗性の問題と関係のない天敵製剤を用いた防除技術を実証したところ、その効き目や散布の省力化、化学農薬使用量削減等の利点が確認できた。そこで、天敵製剤を用いた防除技術を地域全体に普及させ、環境負荷が少なく、かつ省力的な農業技術の拡大を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	農薬散布	農薬散布	農薬散布				農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布は、ハダニ類に登録のある化学農薬が中心。
技術名	化学農薬を中心としたローテーション防除						化学農薬を中心としたローテーション防除						薬剤抵抗性が発達しにくいよう種類の異なる農薬を順番に使用。

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	農薬散布	農薬散布	農薬散布				農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	農薬散布	10月末に天敵(ミヤコカブリダニとチリカブリダニ)、厳寒期にチリカブリダニを導入。農薬散布は補助的にADI非設定農薬中心で実施。
技術名	ADI非設定農薬を中心とした防除、天敵、ハダニの定期的観察						天敵放飼	ADI非設定農薬を中心とした防除、天敵、ハダニの定期的観察	天敵放飼	ADI非設定農薬を中心とした防除、天敵、ハダニの定期的観察			天敵放飼後は、天敵がハダニを捕食。天敵の定着状況は確認が必要。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	2 ▶ 2		地域のいちご栽培面積
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.05 ▶ 1		地域の天敵防除の導入面積
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.05 ▶ 1		地域の天敵防除の導入面積

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	化学農薬のみの防除	天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化学農薬の使用回数（回）	15 ▶ 8		化学農薬15回→8回 ADI非設定農薬3回→7回

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

＊実証結果や天敵メーカーの知見を基に栽培マニュアルを公開し、管内のいちご生産者に技術を周知する。また、資材メーカー、農協、農林水産総合センター等と協力し、導入戸数、面積の拡大を図る。

関係者の役割

関係者名	資材メーカー	JA晴れの国岡山	東備農業普及指導センター	農林水産総合センター
役割	最新情報の提供	生産者のとりまとめ、資材の供給	技術の普及・拡大推進	技術指導